

電子制御装置等の不具合事例

※凡例

OBD OBDで検知できた可能性が高いもの

警告灯 警告灯が点灯していたもの

電子制御装置等の不具合事例

事例1

OBD



自動車の種類: 乗用自動車

走行距離: 約1,300km

情報元: ユーザー情報

不具合の概要: (本情報はユーザーからの申告による)

- 自動車間距離制御機能(ACC)を使用し、前方車両との車間を保ちながら高速道路を走行中、突然機能が停止し、同時に強い回生ブレーキが作動して急減速する不具合が頻発。
- ディーラーに持ち込んだところ、スキャンツールにより、前方監視用のカメラの偏心及びカメラ周辺のヒーターの断線を確認。

事例2

OBD

自動車の種類: 乗用自動車

走行距離: 約220,000km

情報元: メーカー情報

不具合の概要:

- 一般道走行中、エンジンの調子が悪くなりエンストし停止した。その後再始動したが、走行中にブレーキが効きにくくなったことから再度停止したところ、床下から出火した。
- エンジンのプラグコード断線により、失火した状態で走り続け、触媒が過熱し、ブレーキ管が加熱され管内にエアが混入していた。

事例3

OBD

自動車の種類: 乗用自動車

走行距離: 約23,000km

情報元: メーカー情報

不具合の概要:

- 駐車場から公道へ出る際、突然ハンドルが切れなくなったため、後退したが、その際もハンドルが重く、車体後部が鉄塔に衝突した。
- 調査の結果、電動式パワーステアリング(EPS)コントローラーモジュールからEPSモーターへの制御電流の異常を示す故障コードが記録されていた。

電子制御装置等の不具合事例

事例4

OBD

自動車の種類: 軽乗用自動車

走行距離: 約5,000km

情報元: メーカー情報

不具合の概要:

- 走行中、エンジンルーム内から発煙し、エンジンが停止した。
- リチウム電池パックの故障コードが記録されているとともに、電力変換装置の内部がショートしていた。
- 製造過程で電力変換装置の電子チップに異物が混入し、過電流が流れ発熱したと推定される。

事例5

OBD

自動車の種類: 貨物自動車

走行距離: 不明 km

情報元: メーカー情報

不具合の概要:

- 一般道走行中、キャビン内から出火した。
- 出火の4日前、イグニッションキーがONの状態でエアサス作動中の警報ブザーが鳴止まなくなり、ブザーのコネクターを外した。その後、出火まで警告灯もなく、エアサスも正常作動していたことからハーネスに短絡があり、何らかの原因で出火したものと推定される。

事例6

OBD

自動車の種類: 貨物自動車

走行距離: 約264,000km

情報元: メーカー情報

不具合の概要:

- 一般道路走行中、車両下部から出火した。
- EHCU(エレクトロニック・ハイドロリック・ユニット)コネクタから内部に水が入りショートが発生し出火したものと推定される。また、運転席のABS警告灯のバルブが取り外されており、バルブを取り付けると点灯したことから、警告に気づかず使用を継続していたと考えられる。

電子制御装置等の不具合事例

事例7

OBD



自動車の種類: 乗合自動車

走行距離: 約1,231,500km

情報元: メーカー情報

不具合の概要:

- 走行中、ブレーキに違和感があったため、停止して確認したところ、右後輪付近から出火していた。
- スプリングブレーキ系統からのエア漏れがあり、ブレーキを引き摺り出火に至ったものと推定される。
- エア圧警報ランプ、ブザーのハーネスが断線し、作動しなかったことから、運転手が気づくことができなかった。

事例8

OBD



自動車の種類: 特種用途自動車

走行距離: 約124,000km

情報元: メーカー情報

不具合の概要:

- 20km/hで走行中、ブレーキをかけABSが作動したが、減速しなかったため、側壁及び道路標識に衝突した。
- ABSには不具合はなかったが、ブレーキフルード低下のエラーコードが記録されていたことから、急傾斜の雨天路面において、ABSが作動したがブレーキフルード不足により、フェールセーフモードとなり、ABSの効きが悪くなったことからタイヤがロック状態になったと推定される。

事例9

OBD

自動車の種類: 乗用自動車

走行距離: 約37,000km

情報元: メーカー情報

不具合の概要:

- エンジン始動後、回転が不安定であったが走行を開始したが、直後に助手席足下付近から発煙、出火した。
- 調査の結果、エンジンの全気筒の点火プラグに大量のすすが付着しており、第2、5気筒が失火状態であったことから、エンジンが不調のまま使用したため、出火したものと推定される。

電子制御装置等の不具合事例

事例10

OBD

自動車の種類: 乗用自動車

走行距離: 不明 km

情報元: メーカー情報

不具合の概要:

- 一般道を走行中、加速が悪く、目に痛みを感じたため停車したところ、右ヘッドランプ付近から出火した。
- 調査の結果、エンジンの3番気筒の失火による触媒の異常加熱より、出火したものと推定される。

事例11

OBD

自動車の種類: 乗用自動車

走行距離: 約110,000km

情報元: メーカー情報

不具合の概要:

- バッテリー充電のため駐車場で約10分間空ぶかしをしていたところ、車両後部から出火した。
- 調査の結果、エンジンの第5,6気筒に失火の痕跡及び触媒の損傷が認められた。当該車両は約1年間未使用で保管されており、出火当日エンジン始動後、アイドリングが不安定であったことから、失火した状態で空ぶかしを続けたことにより、未燃焼ガスが触媒内で燃焼し出火したものと推定される。

事例12

OBD

自動車の種類: 貨物自動車

走行距離: 約98,000km

情報元: メーカー情報

不具合の概要:

- 流入路で加速中、突然減速したため、後続車に追突された。
- 調査の結果、自動変速機(AT)のローアンドリバースブレーキ用ソレノイドが断線していたことから、2速から3速にシフトアップした際、当該ソレノイドが作動せず、車両が減速したことが判明した。

電子制御装置等の不具合事例

事例13

OBD

自動車の種類: 乗用自動車

走行距離: 約73,000km

情報元: メーカー情報

不具合の概要:

- 走行中、突然エンストしボンネットから発煙した。
- 調査の結果、第2気筒のダイレクトイグニッションコイルのプラグキャップに水分による腐食が確認された。
- 清掃の際に使用した高圧スチーム洗浄により、プラグやコネクタ部に水分が進入し放置され、腐食や接点不良に至ったと推定される。

事例14

OBD

自動車の種類: 乗用自動車

走行距離: 約135,000km

情報元: メーカー情報

不具合の概要:

- エンジン始動後、エンジンから異音が生じ、確認したところスターター付近から出火していた。
- 調査の結果、スターターの電源線が内部発熱の痕跡があり、マグネットスイッチの接点の摩耗が激しく溶着痕もあった。以前から始動不良がたびたびあったことから、マグネットスイッチの接点が過熱、溶着しスターターが回りっぱなしになったことから配線が過熱したと推定される。

事例15

OBD

自動車の種類: 貨物自動車

走行距離: 約50,000km

情報元: メーカー情報

不具合の概要:

- 高速道走行中、エンストし、エンジンルームから発煙したので停止し、水をかけて消火した。
- 調査の結果、スターターモーター付近のハーネスが焼損しており、第2気筒のコンロッドが破損しシリンダブロックに穴が開いていた。また、インジェクターの取り付け部から燃焼ガス漏れもあり、オイル警告灯もたびたび点灯していたことから、オイル消費量増大によりエンジンが焼き付き出火に至ったと推定される。

電子制御装置等の不具合事例

事例16

OBD

自動車の種類: 乗用自動車

走行距離: 不明 km

情報元: メーカー情報

不具合の概要:

- 走行中、エンストしそうになったことから、エンジンを吹かして走行を続けたところ、車室内から出火した。
- 調査の結果、エンジンの点火プラグに失火した痕跡があり、不具合発生以前からエンジン不調もあつたことから、エンジンの失火により未燃焼が触媒内で燃焼し出火したものと推定される。

事例17

OBD



自動車の種類: 乗用自動車

走行距離: 約30,000km

情報元: メーカー情報

不具合の概要:

- 一般道走行中、EPS(電動パワーステアリング)のアシストが効かなくなり、外側に膨らんで縁石に乗り上げ左後輪を損傷した。
- 調査の結果、バッテリー劣化が認められたことから、電圧低下によりEPSアシストが停止したと推定される。

事例18

自動車の種類: 乗用自動車

走行距離: 約600km

情報元: メーカー情報

不具合の概要:

- 坂道で発進しようとアクセルペダルを踏んだが、ペダルが反発し前に進まず車両が後退し車両後部を何かにぶつけて損傷した。
- 調査の結果、低速域衝突軽減ブレーキ(CTBA)に異常はなかったが、当該車両は車高調整により前側が下がっている状態で、CTBAが反応する位置関係が変化したことで、システムが作動したものと推定される。

電子制御装置等の不具合事例

事例19

自動車の種類: 乗合自動車

走行距離: 約225,000km

情報元: メーカー情報

不具合の概要:

- 上り坂の右カーブを走行中、自動で急ブレーキがかかり、乗客が負傷した。
- 調査の結果、衝突軽減ブレーキシステムのレーダーセンサーの取り付け角度が基準より下向きに取り付けられていた。これに加え、段差を通過した際の車体の上下動により、道路に対し当該システムが反応しブレーキが作動したものと推定される。

事例20

自動車の種類: 貨物自動車

走行距離: 約443,000km

情報元: メーカー情報

不具合の概要:

- 一般道を走行中、メーターパネル付近から出火した。
- 調査の結果、AC発電機のICレギュレーター回路の断線により、発電電圧制御不良に至ったことで、メーター部が過熱し発生したものと推定される。

事例21

自動車の種類: 乗用自動車

走行距離: 約82,000km

情報元: メーカー情報

不具合の概要:

- 走行中、エンストしてハンドル操作及びブレーキが効かなくなり、車をぶつけて止めた。
- 調査の結果、カム角センサーのコンデンサ部の半田にクラックが発生し、出力異常となりエンストしたと推定される。

電子制御装置等の不具合事例

事例22

OBD

警告灯

自動車の種類: 貨物自動車

走行距離: 約458,000km

情報元: メーカー情報

不具合の概要:

- エンジンかけたまま停車し仮眠中、シャシハーネスから出火した。
- 出火以前からABS警告灯が点灯していたにもかかわらず、使用を継続していた。
- 原因はABSハイドロリックユニットのコネクタに水が浸入しショートしたことによるものと推定される。

事例23

OBD

警告灯

自動車の種類: 特種用途自動車

走行距離: 約336,000km

情報元: メーカー情報

不具合の概要:

- 一般道路を走行中、車両下部から出火した。
- 出火の1ヶ月前からABS警告灯が点灯していたにもかかわらず、使用を継続していた。
- 原因はABSユニットに水が浸入しショートしたことによるものと推定される。

事例24

OBD

警告灯

自動車の種類: 貨物自動車

走行距離: 不明 km

情報元: メーカー情報

不具合の概要:

- 走行中、ハイブリットユニット付近から出火した。
- 出火の3日前からバッテリーの警告灯が点灯していたにもかかわらず、使用を継続していた。
- バッテリーの液枯れが発生し、異常発熱したことから出火したものと推定される。

電子制御装置等の不具合事例

事例25

OBD

警告灯

自動車の種類: 貨物自動車

走行距離: 不明 km

情報元: メーカー情報

不具合の概要:

- 駐車中、ABSハイドロリックユニット付近から出火した。
- 出火の2ヶ月前からABS警告灯が点灯していたにもかかわらず、使用を継続していた。
- 原因はABSハイドロリックユニットのコネクタに水が浸入しショートしたことによるものと推定される。

事例26

OBD

警告灯

自動車の種類: 貨物自動車

走行距離: 約264,000km

情報元: メーカー情報

不具合の概要:

- 走行中、ハイブリッド装置付近から出火した。
- 出火の前から警告灯が点灯しエンジンの始動が困難な状態が頻発していたので、そのたびにバッテリー端子をはずしてリセットし、使用を継続していた。
- ハイブリッド用のバッテリーが低電圧の状態です長時間使用したことにより液枯れが発生し、異常発熱したことから出火したものと推定される。

事例27

OBD

警告灯

自動車の種類: 貨物自動車

走行距離: 約284,000km

情報元: メーカー情報

不具合の概要:

- 車庫内で荷下ろし中、エンジンの発電機付近から出火した。
- 出火以前から充電警告灯が点灯しており、発電機付近の配線が焼損していたことから、発電機の加熱による出火と推定される。

電子制御装置等の不具合事例

事例28

OBD

警告灯

自動車の種類: 乗用自動車

走行距離: 約108,000km

情報元: メーカー情報

不具合の概要:

- エンジンを始動したところ、突然、運転席のサイドエアバッグが展開し、運転手が軽傷を負った。
- 不具合発生の前日、エアバッグの警告灯が点灯していたが、処置を行わなかった。エアバッグの配線にショートした痕跡があったことから、エンジン始動直後のエアバッグの初期導通診断の際に、エアバッグモジュールに電流が流れエアバッグが展開したものと推定される。

事例29

OBD

警告灯

自動車の種類: 貨物自動車

走行距離: 約545,000km

情報元: メーカー情報

不具合の概要:

- 走行中、ABS警告灯が点灯したがそのまま走行したところ、右後輪から破裂音とともに出火した。
- 調査の結果、ブレーキに引き摺りの痕跡があった。また、ブレーキペダルのストップランプのスイッチが正規の位置ではなかった。数日前の整備で調整を行っていることから、不適切な整備によるブレーキペダルの戻り不良が原因と考えられる。

事例30

OBD

警告灯

自動車の種類: 貨物自動車

走行距離: 不明 km

情報元: メーカー情報

不具合の概要:

- エンジン始動しようとしたが、スターターが回らず、警告灯が点灯したことから点検したところ、車体の一部が焼損していた。
- 調査の結果、ブレーキのABS装置の構成部品が焼損しており、当該ユニットに亀裂がありブレーキ液も漏れていたことから、漏れたブレーキ液がユニット内の電子基板に付着し、ショートし出火したと推定される。

電子制御装置等の不具合事例

事例31

OBD

警告灯

自動車の種類:貨物自動車

走行距離:約307km

情報元:メーカー情報

不具合の概要:

- プラットホームにバックで駐車しようとしたところ、トランスミッション警告灯が点灯し、ギアが入らなくなった。数回ギアチェンジを試みたところ、急にギアがバックに入り、プラットホームに衝突した。
- 調査の結果、ロックアップソレノイドハーネスの被膜が破れており、駆動系回路がショートによりバックアップ制御に入っていたことに使用者が気付いていなかったことが判明した。

事例32

OBD

警告灯

自動車の種類:乗用自動車

走行距離:約16,000km

情報元:メーカー情報

不具合の概要:

- 走行中、警告灯が点灯し、車両右後部より発煙した。
- 調査の結果、バッテリーコントロールユニット内部のプリント基板に何らかの外的要因により、ショート等が発生し出火に至ったものと推定される。